

人を助ける犬たち

58期生

I テーマ設定の理由

最近、盲導犬に関する本や映画などがとても人気です。私は、その本や映画を見て、盲導犬はすごいと思いました。また、疑問もいっぱいありました。例えば、どうして盲導犬は障害者に道を教えることができるのか・盲導犬はどのような訓練をしているのかなどです。だから、盲導犬・介助犬・聴導犬・セラピードッグなど人を助ける犬たちについて調べてみようと思いました。

II 研究方法

・関連する本や、インターネットで調べる。

III 研究内容

1. 盲導犬について

盲導犬とは、視覚に障害のある方の歩行をサポートする大切なパートナー。

盲導犬は、障害物を避けたり、段差を教えてくれたりしてくれるだけでなく、視覚に障害のある方々に、前に進む勇気・希望・自信をプレゼントしてくれる犬でもあります。



(1) 盲導犬の歴史

- | | |
|-------|---|
| 1819年 | ヨハン・ウィリアム・クラインというウィーンの神父が犬の首輪に細長い棒をつけたのが始まり。 |
| 1916年 | ドイツにおいて盲導犬の育成学校が発足され、組織的な訓練が始まる。 |
| 1938年 | 米国からの旅行者が盲導犬を伴って日本に立ち寄り、日本は初めて盲導犬の存在を知る。 |
| 1939年 | 四人の実業家が1頭ずつ訓練済みの盲導犬をドイツから輸入。 |
| 1957年 | 日本初の盲導犬“チャンピィ”の誕生 |
| 現在 | 日本には約34万人の法定盲人がいて、その内の約12万人は全盲である。盲導犬使用希望者は、視覚障害者の1~2%と推定されているが、実際に使用しているのは約0.13%にすぎない。 |

(2) 盲導犬の一生

盲導犬の素質を持った繁殖犬を、生後約1ヶ月で母犬から離してまず“社会化”させ、いろいろな物・人を見せたりするため、ブリーディングウォーカーというボランティア活動をしている家庭で預かってもらう。



将来、盲導犬として家庭の中で生活するのに必要な生活ルールやマナーを身につけさせ、人間に対して信頼感・安心感を持つ人間好きな犬になってもらうため、仔犬（パピー）を生後2ヶ月から約1年間、パピーウォーカーというボランティア活動をしている家庭で預かってもらう。

盲導犬の訓練センターに入り、盲導犬に向いているか適正判断を受ける。

訓練センターで約6ヶ月の訓練を受ける。



訓練途中で盲導犬には向かないと判断された犬は、家庭犬としてキャリアチェンジウォーカーに預かってもらう。中には、介助犬やセラピードッグとして活躍したり、盲導犬を知ってもらうために学校などでデモンストレーションを行う“PR犬”となる犬もある。

指導員が目隠しをして仕上げテストをし、このテストに合格してやっと盲導犬となれる。

盲導犬使用者と性格が似ている犬をペアにし、約4週間歩行指導や盲導犬と一緒に生活するための指導を受ける。

約8年間活動

10才（人間で56才）になり視力・聴力がおとろえるので、盲導犬を引退する。

元気な犬
一般のペットとして、リタイヤ犬ウォーカーというボランティアの家庭に預かってもらう。

元気でない犬
訓練センターで、仲間の犬と一緒に過ごす。

[盲導犬に適している犬の条件]

- ・ 温和な性格を持ち、他の動物に対して攻撃的でない
- ・ 吠えたり、かみついたりしない
- ・ 注意深くて頭がよく、働く事が好きである
- ・ 飼い主に忠実である

よって、盲導犬はこのような性格のラブラドルレトリバー・ゴールデンレトリバーが多い。

※盲導犬に使う指示言葉

街で盲導犬を見かけた時、使用者は Good・Stop・Left など英語で指示をしている。

[どうして盲導犬に英語で命令するのか]

- ・ 日本語の命令形は語調が強く聞こえ、まわりの人がびっくりしたり、不快に思うから。
- ・ 男女によって言葉のちがいがあつたり、方言などがあるから。

(3) 盲導犬の現状

〈日本の盲導犬実働数ベスト3〉

- 1 東京都……78頭
- 2 大阪府……62頭
- 3 北海道……59頭

〈世界の盲導犬実働数ベスト3〉

- 1 ドイツ……1万5000頭
- 2 アメリカ……1万頭
- 3 イギリス……4700頭

上の実働数や下の図1より、盲導犬はまだまだ普及されていない。

[普及できない原因]

- ・ 飲食店、宿泊施設などで、まだ盲導犬に対する理解がない。
- ・ 盲導犬育成に高額の費用がかかる。

↳盲導犬1頭に約300万円

(4) 町で見かけたら

- ・ 仕事なので、触ったりしない。
- ・ 食べ物を与えない。
- ・ 困っていたら、遠慮せずに声をかけてみる。
- ↳盲導犬は信号の色がわからず、使用者が車の音を聞いて渡るので、声をかけてみる方がいい。

施設名	訓練総数	卒業頭数
北海道盲導犬協会	27頭	13頭
栃木盲導犬センター	16頭	5頭
アイメイト協会	82頭	20頭
日本盲導犬協会	81頭	21頭
中部盲導犬協会	42頭	6頭
日本ライトハウス	94頭	22頭
関西盲導犬協会	49頭	7頭
兵庫盲導犬協会	18頭	2頭
福岡盲導犬協会	28頭	8頭
合計	437頭	104頭

図1 1年間で盲導犬となった頭数

2. 介助犬について

介助犬とは、肢体障害者—手足が自由に動かない人—のために、手足のかわりとなって、動作介助をする犬。介助の内容は、障害者1人1人に合わせて訓練されるオーダーメイドである。日本では、盲導犬は法律で認められ国から援助があるが、介助犬は許可なく出入りすることができない。



(1) 介助犬の歴史

- 1970年代後半 ボニ・パーゲンさんという女性が、障害をもつ人と犬たちの関係を考えたことによって、世界初の介助犬がアメリカで誕生した。
- 1992年 アメリカの介助犬“ブルース”が日本にやってくる。
- 1995年 日本初の介助犬“グレーデル”の誕生
- 現在 肢体不自由者全国165万人のうち、49万5千人が介助犬を必要と考えられ、その中で、約15000人が介助犬を希望している。しかし、日本では介助犬は約28頭しか働いていない。

[なぜ介助犬にラブラドル・レトリバーが多いのか]

- ①物を取って持ってくるのが大好きであるから
ラブラドル・レトリバーは、その名のとおり物をレトリブ（回収）するのが得意である。
- ②ちょうどいい大きさであるから
体高が約54～62cmのラブラドルは、立ち上がる時の支え（写真1）になったり、エレベーターのボタンを押すのにちょうどいい大きさである。

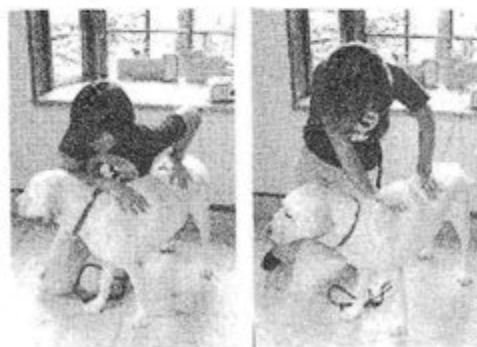


写真1 起立を介助する介助犬

※指示語

介助犬への指示は、動詞は英語、名詞は日本語である。理由は、日本語の動詞にはたくさんの言い回しがあるから。

例) 新聞を持ってきて → Take 新聞

3. 聴導犬について

盲導犬や介助犬は、「障害者の命令に従って働く犬」と言われているが、聴導犬の場合は「今、音が鳴っているから私に教えなさい」とは命令できない。

聴導犬は、犬自体が自分で音を聞き分け、障害者に必要な音と判断した時に、教えるように訓練されている。

また、聴導犬の仕事は家の中で音を教えるだけでなく、どこにでも同行して、聴覚障害者の方々を災害や事故に巻きこまれる危険性も回避する。だから、いろいろな場所で自信を持っていられることが必要である。

写真2 聴導犬が前足で障害者にタッチして音を教えている様子。

(1) 聴導犬の歴史

- 1966年 リンダ・ブリチャードというアメリカ人が購入したジャーマン・シェパード“スキッピー”に、音を前足でタッチさせて知らせたのが始まり。
- 1981年 日本で、聴導犬の訓練が始まる。
- 現在 約15頭が働いている。

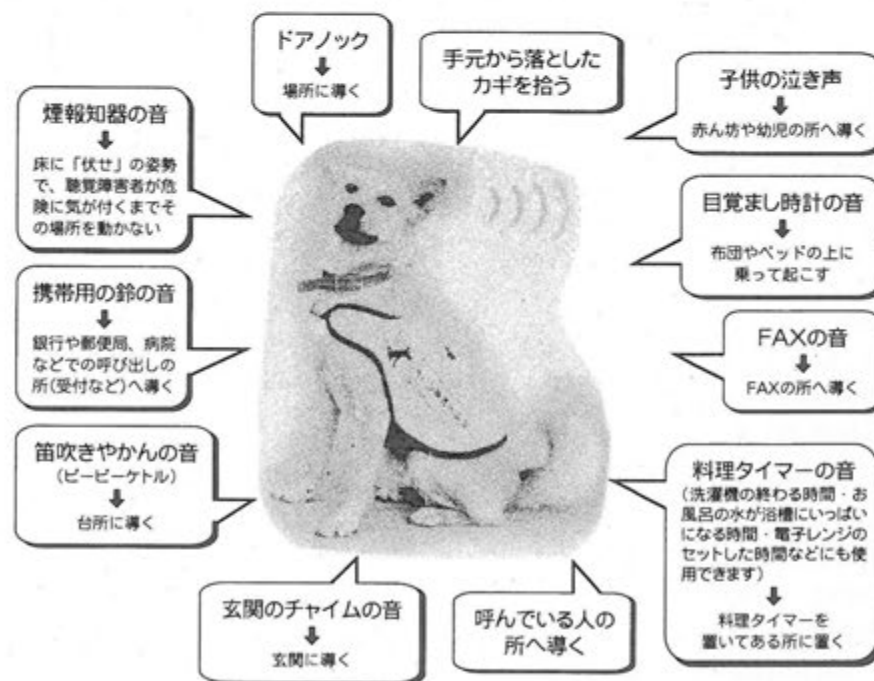


写真3 聴導犬の仕事

4. セラビードッグについて

セラビードッグは、以下の2通りに分類される。

〈動物介在活動犬〉

動物と触れ合うことを目的として、そのために訓練を受けた犬。

〈動物介在療法犬〉

人の心と身体のリハビリを促進させる治療を目的として、その治療計画に基づき、それに必要不可欠な訓練を受けた犬。

(1) セラビードッグの効果

①生理的效果

犬が側にいるだけで脈拍が安定し、散歩による運動や犬を飼う事で規則正しい生活が送れるようになる。

その結果、血圧・コレステロール値が安定する。

②心理的效果

ストレスがあっても犬が側にいることで、気持ちが落ち着き、生活に喜びを感じ、うつ病を防止する結果がでている。

③社会的効果

犬がいることで話題が増え、コミュニケーションの場が広がる。

IV 結 論

人を助ける犬たちは、私が思った以上にえらいということがわかった。そして、そんな犬に育てるまでに、訓練士や獣医だけでなく、パピーウォーカーやたくさんのボランティアの協力があるからだということがわかった。

V 感 想

日本で活躍している介助犬・聴導犬の数を知って、とても驚いた。普及されていない事情などがわかり、どんどん積極的に募金をしていこうと思いました。そして、今の人を助ける犬たちの現状をもっと知らせていくべきだと思った。

VI 参考文献

本 ・「わかる！盲導犬のすべて」 松井 進著 明石書店

- H P ・ <http://www.moudouken.net/>
・ <http://www.eyemate.org/>
・ <http://sdog.age.ne.jp/>
・ <http://www.kansaikaijoken.com/>
・ <http://www.jsdra.jp/>
・ <http://www.hearingdog.or.jp/>
・ <http://www.fgda.or.jp/>
・ <http://www/s-dog.jp/index/php>